

2023年度事業計画

グローバル神学の推進（推進責任者：学長）

神学部総合神学科、大学院 神学研究科、教会音楽 専攻科では、全人的（Holistic）な教育によりグローバルかつローカルに考え行動する「福音を肌で感じさせるキリスト者」を育て、教会と社会に仕える教会教職者と信徒の献身者を輩出することをめざしています。そのために、大学改革のコンセプト「Stand in the Gap 破れ口にキリストの平和を」を継承し、総合神学科の5つの専攻領域（教会教職、グローバル・スタディーズ、ユース・スタディーズ、キリスト教福祉、神学教養）を「実践的神学教育」の観点で統合していく「グローバル神学」を推進します。これは、学生達が世界（グローバル）や地域社会（ローカル）における課題（破れ口）を察知する感性を培い、神の国の広がりを経験し、理解を深め、実践力を高める取り組みです。グローバル神学の推進が学生募集と財政基盤の確立に寄与し、財政基盤の確立が教育・学生支援、研究の土台となるサイクルを築きます。

教育・学生支援（推進責任者：学部長）

「カリキュラム（総合神学科、研究科、専攻科）とグローバル神学の結びつきを確認し、グローバル神学の観点でTCUの教育、研究分野からの発信、部署や個人の活動をつなぎ合わせる。」（事業計画策定方針）

「グローバル神学実現のための手段として、学生支援のより一層の充実と入学前教育からキャリア支援まで一貫性のある学生支援体制の確立、オンライン教育の拡充を進める。」（事業計画策定方針）

	第4期中期計画の目標	具体的施策	具体的施策実現のため2023年度にやること (2023年度事業計画)	具体的施策実現のため 2024年度以降にやること
①	今日の教会と社会の課題に応える教育と霊的形成を進める。	(1) エンロールメントマネジメント体制の整備	他大学のエンロールメントマネジメント体制の調査を行い、TCUにあった体制について検討する。	
		(2) 全ての学生のニーズに応じた学生支援の展開	担任、学生支援に関わる担当部署がチームとして学生を支援する体制を整備する。	
			現状の日本語トラック学生を中心とした学習支援サービスから、学習を含むあらゆるニーズを含む全学生を対象とした支援サービスの提供方法について検討する。	
			日英両トラックにおける教育・学生支援・カリキュラムの整合性を検討し、両学生に平等なサービス提供を、教職員協働で検討する。例：TCUスタンダード、入学前教育、ライティングセンター	
(3) 学生協働による教育・学生支援活動の推進	障がい学生支援における学生によるサポート体制を整備し、支援活動を実施する。			
	授業評価アンケートを教育改善に用いるためにアンケートを分析できるようシステムを修正する。			
	学生会と授業改善に関する意見交換を実施し、FDで情報を共有する。			
(4) 信仰共同体、学習共同体、生活共同体による複層的な支援の展開によるセーフティネットの形成	縦割りのコイノニアの実施方法について検討する。			
	日本人学生と留学生合同の共同体形成について検討する。			

		(5) 学習成果の可視化による教育の内部質保証の推進	<p>教育・学生支援活動の組織体制を整備し、教学マネジメントを実施する。</p> <p>専攻会議等カリキュラム調整の役割分担を整理し、カリキュラム編成の体制を整備する。</p> <p>学生の学修行動を把握するために学生調査を実施する。</p> <p>TCUポートフォリオの情報から学修成果・教育効果を分析できるようにシステムを修正する。</p> <p>教員の教育評価の仕組みを構築する。</p> <p>非常勤教員を含む全教員にシラバス作成の意義を周知し、全教員の必須項目入力を達成する。</p>	
		(6) 教会と社会の課題に応える教育と霊的形成の推進	<p>グローバル神学の構築を教員全体の研究課題またFDの課題として実行する。</p> <p>現代世界と地域社会の課題と霊的形成の課題を結びつける授業を開拓する。</p> <p>次世代（青年、児童）へのミニストリーに応える教育内容を検討する。</p>	
②	日本語トラック生には英語での、英語トラック生には日本語での授業履修を奨励し、グローバルな環境での学びと寮生活の優位性を高める。 (2023年度重点施策)	(1) J/Eトラック生交流に寄与するバイリンガル授業の促進	バイリンガル授業設計のための研修機会を提供する。	授業設計に基づくバイリンガル授業を発展させる。
		(2) 多読によるJ/Eトラック生の交流の促進	定期的な合同授業を試験的に実施する。	定期的な合同授業を発展させる。
		(3) 寮運営委員会や留学生との協同によるグローバルな寮生活の促進	学生が主体的にグローバルな寮生活の在り方を話し合う環境を促進する。	グローバルな寮生活の在り方を試験的に実施する
③	地域や海外での交流やインターンシップを増やし、社会の現場で鍛えられる環境を作るとともに、キリスト者としての就職先をさらに開拓する。	(1) 専攻の枠を超える実習・インターン先の一括提示	過去の実習・インターン実績を元にデータベースを作成し、留学生も含めていつでも学生が閲覧できるようにする。	
		(2) 「働くこと（キャリア）」について、学年を通じて意識できる仕組みづくり	<p>社会経験の長さに関係なく、多様なキャリアをもつ卒業生や社会・地域の方々の話を聞く機会を全学生に向けて提示する。</p> <p>社会の現場を学生が直接訪問する機会を設ける（卒業生及び地域・社会の方々との橋渡しを各教職員がする）。</p>	
		(3) 各専攻毎の実習特性を踏まえた、総合神学科としての実習・インターン方針の作成	各専攻の実習・インターンの方針（マニュアル）を全学生が閲覧できるようにする。	
			各専攻の実習・インターン方針に共通する項目を割り出し、総合神学科としての実習・インターン方針を作成する。	

④	留学生の日本語能力の向上と日本語能力試験N2レベルの留学生受け入れのための仕組みを整備する。	(1) 留学生が意欲的に日本語学習に取り組み、また学びの内容を用いて、より良好な人間関係を構築して行くことを励ますための企画の検討・推進	留学生に対する日本語教育に、日本語を用いる学生がクラスの内外で積極的に関わることが出来るシステムを作る。	
		(2) グローカル神学の展開を念頭に起きつつ、TCUの留学生のみならず、近年増えつつある在留外国人のための言語的サポートという観点から社会に貢献できる人材の育成	日本語教育能力検定試験の受験サポートも視野に入れつつ、日本語教育の講義に加え、それを実践で活かすことの出来る多様な機会を提供する。	
		(3) (2)の取り組みを念頭に置いた、日本語教育の資格取得をサポートするプログラムの準備	日本語教育の資格取得の準備として、guided studiesまたはサークルを立ち上げる。	
⑤	オンライン教育によりTCUの教育提供の可能性を拡充し、大学院では修士課程のオンラインでの提供をめざす。(2023年度重点施策)	(1) オンラインでの修士課程の提供	オンライン修士プログラム(2023年度設置)の授業内容・指導の向上を目指し、ハード面・ソフト面の拡充を図る。 オンライン修士プログラムの広報活動を積極的に展開する。	
		(2) 「どこでもTCU」における履修証明プログラムの準備	学部・大学院の「どこでもTCU」のクラスを、現在より小さく多様な括りでまとめ、履修意欲を高める工夫を行いつつ、広報活動にも力を入れる。	
⑥	今日の日本における教会形成と宣教に寄与する教会音楽文化の創造につながる教育を提供する。	(3) 学内外における「対話」と「発信」の深化	器楽やクワイアを含めた科目を充実させる。 教会や学生のニーズと対応を研究する。 内外での広報方策を検討し、実施する。	①教会音楽奉仕者の育成への取り組み ②絶えず現在を起点とする伝統と現代の調和 ③教会教職生、副専攻生への教会音楽教育の科目の精査と展開 ④アカデミー(研究・講座・教会/地域貢献)のグローバルな展開・発信

研究(推進責任者: 研究支援センター長)

「グローバル神学の観点でTCUの教育、研究分野からの発信、部署や個人の活動をつなぎ合わせる。」(事業計画策定方針)

	第4期中期計画の目標	具体的施策	2023年度	2024年度以降
①	グローバル神学に関する研究活動、及びその成果を用いた地域連携を推進する。	(1) 「グローバル神学の推進」、FCC、共立基督教研究所、におけるグローバル神学研究の推進	「グローバル神学の推進」、「グローバル神学調査研究」(共立基督教研究所)においてグローバル神学研究の概要を検討する。	
		(2) 公共福祉センターの活動を通じた地域・社会連携とグローバル神学研究の推進	公共福祉センターの活動をとおり、地域・社会連携とグローバル神学研究を推進する。	
		(3) 研究会、セミナー等を通しての研究促進	「キリスト教と福祉研究会」「キリスト教葬制研究会」「信徒の神学フォーラム」(国際宣教センター)「霊的形成研究プロジェクト」「サーバント・リーダー翻訳研究」(共立基督教研究所)による研究会、セミナー等とおして研究を行う。	
②	大学全体としての研究活動を促進するための有機的な研究組織へ再編する。	(1) 2022年度に行った検討に基づく組織再編の実施及び検証・改善	2022年度の検討を踏まえた新研究体制により活動し、年度末に1年目の評価・改善を行う。	

③	外部研究費の獲得とそのための環境整備を行う。	(1) 外部研究費申請の一層の促進	外部研究費への申請を一層促進し、年間本学より5件以上の申請を目指す。
		(2) 研究活動充実のためのセミナー、勉強会、ワークショップ等の開催	研究活動充実のためのワークショップを開催する。
		(3) ウェブサイト等を通しての研究成果の公開と学内向け支援の充実	本学の研究活動の公開、及び研究支援の専用ページを新設する。
④	アジア地域をはじめとする国際的の神学研究交流を促進する。	(1) 積極的な交流再開の促進	ポストコロナのなか、積極的に交流を再開し、本学においても学術大会等を開催する。
		(2) 東アジア、特に中国語圏との神学研究交流に向けた連携促進	東アジア、特に中国語圏との神学研究交流に向け、ネットワークづくりを推進する。 中国語圏の神学教育機関の講師による講演会等を開催する。
⑤	教会と社会の課題に応える福音主義神学研究からの発信を行う。(2023年度重点施策)	(3) 研究誌による成果の公開	「礼拝音楽研究」(教会音楽アカデミー)、「共立キリスト教研究」(仮称・共立基督教研究所)を刊行する。

学生募集(推進責任者:学長)

「2024年度入学生72名をめざして、全項目について積極的に推進する。」(事業計画策定方針)

	第4期中期計画の目標	具体的施策	2023年度	2024年度以降
①	毎年、入学/収容定員充足率 100% + α を達成し、2027年には学生230名、入学者82名をめざす。	(1) 資料請求から出願までのファネル・ストラテジーを用いた管理、取りこぼしの無いプロセスの構築	春入学生募集:出願前の受験相談の機会を設ける。	
			秋入学生募集:3 Stepsを継続する。	
		(2) より多くの人が実際にTCUに足を運ぶよう、TCUを紹介するだけでなく、訪問者に益となるようなプログラムの準備	オープンキャンパスの企画に特色を出す。	
			uniTed2023を実施する。	
		(3) 韓国人・韓国の教会への学生募集	韓国教会の日本語部へのアプローチを行う。	
			韓国教会の見学ツアーを誘致する。	
		(4) 女子学生の入学者	女子学生を意識した広報を行う。(初年次から5つの専攻の学びが充実していること、等)	
			女子学生を意識したカリキュラムの充実を検討する。(英語プログラムのパッケージ化(グローバル寮含む)初年次のグローバルや福祉関連の授業の充実、等)	
(5) 1年次学生募集の強化	カリキュラム等の検討を通じて総合神学科としての内実を整え ると共に、課題(幅広い学びをアピールできる組織名称等)があればそれについても検討し、改善策を提案する。			
(6) キャンプ訪問	在学生を前面に出した訪問を実施する。			
(7) 学校訪問	模擬授業、探究の授業などにより学校訪問を充実させる。			
(8) 教会訪問	在学生と教員とで訪問する形を増やす。			

②	教会教職課程の募集では教会・教団教派と連携を深め、教会教職者を志す人に訴求する学生募集を行う。	(1) 教会教職者を志す人がより多く与えられるよう、献身を励ます集会やイベントの積極的展開	uniTed2023を実施する。 支援教団、在籍教会との懇談会を実施する。	
		(2) 教会教職志望者が、個人でもTCUを訪問できる体制整備	教会教職志望者の学校見学を積極的に募集する。	
③	高大接続とキャリア教育の観点から、学校や宣教団体との連携を拡充する。	(1) 学校や教会、教団、国内外の宣教団体が、個別の単位でオープンキャンパス外にもTCUを訪問できるよう、キャンプ・修養施設として使用できるための環境整備	家族寮、シオン寮等を学生募集の宿泊場所として利用できるよう関係部署と調整し、チャーチスクール、キリスト教高校へ案内する。	
		(2) ミッションスクール生やチャーチスクール生、ホームスクール生にとって価値のある学びの提供	どこでもTCUハイスクールを開設する。	
④	アドミッション・ポリシーと教育目標にふさわしく入試と奨学金制度を整える。	(1) シニア層にも焦点を当て、大学院のオンラインプログラムや、その前段階の「どこでもTCU大学院」のアピール・活用	大学院オンラインプログラムを実施する。 「どこでもTCU大学院」のアピールを行う。	
		(2) 探究型入試と奨学金の新設	グローバル神学に関係する入試と奨学金制度を24年度入学生募集に向けて準備する。	
⑤	ユース ミニストリー、キリスト教福祉、教会音楽、保育などの分野における TCU の教育の認知度を高める。	(1) アピール材料にできるような資格取得を支援するプログラムの充実	キャリア支援室中心に資格取得プログラムを実施し、学生募集に生かす。	
		(2) 各専攻の特色ある広報施策を行う。	「Global Connections」を「Glocal Connections」と位置づけて、各専攻の特色あるゲストを招く。 卒業予定学生のインタビュー動画を作成し、各専攻の特色をアピールする。	

財政基盤の確立（推進責任者：副理事長）

「約1億8,000万円（学生数180名分相当）の学納金収入を確保し、寄付金、資金運用面での増収を図る。」

「2027年度資金収支均衡を達成すべく大胆な支出の見直しを進め、赤字幅を圧縮する。」

「神プロIII群（財務チーム）による課題抽出と整理に基づき、常任理事会を中心に全学を挙げて財務改善を果たす」（事業計画策定方針）

	第4期中期計画の目標	具体的施策	2023年度	2024年度以降
①	経営責任の中核を担う常任理事会のもと、法人事務局を強化し、財政的諸課題の徹底的な洗い出しとその克服のために必要な実務的対応を進める。	(1) 理事長室の設置（法人事務局の改称）	理事長、副理事長、事務局長、法人部門の職員組織を形成し強化する。	
		(2) 会計システムの整備と諸課題の洗い出し・実務対応	仕訳・資産管理・口座の整備等、課題の洗い出しと実務対応の方向性を提示する。	
		(3) 理事会（常任理事会）のガバナンス機能強化	財務基盤確立の前提として、理事オリエンテーション、監事規程の整備等を実施する。	

②	収入の部：学納金、寄付金〔献金〕、補助金、資金運用、事業収入等の増収のため、「教育・学生支援」、「研究」、「学生募集」の各分野と連携し、具体的展開を進める（第二次神プロの目標：2027年に学生数230名相当、献金1億2千万円）。加えて新規収益事業に取り組む。	(1) 学納金（学生数）推移の把握と180名分相当の収入確保	在籍者数の把握と180名分相当の収入確保のモニタリングを行う。	
		(2) 寄付金増に向けた企画立案	既存の活動に加え、企業、遺贈、TCUFなどの働きかけを強化する。	
		(3) 積極的な資金運用	長期・短期の運用方針を実践する。円ドル按分比率を検討する。ファンドマネジャーの登用を検討する。	
		(4) 新規事業誘致・協働・収益化に向けた企画立案	インターナショナルスクール、神学校との連携・協働の可能性を検討する。	
③	支出の部：人件費、諸経費等の適切な管理とさらなる圧縮に努め、特に学園経営に適切な人事計画の立案、実施を進める。	(1) 人件費推移把握と次期人事計画の立案	向こう五年間の人件費試算に基づく人事計画を立案する。	
		(2) 予算編成・管理の徹底	予算外の執行についてルール化し、編成会議を経て常任理事会の承認を必要とする体制を整備する。	
		(3) 新規資金調達と資金繰り	銀行融資、学園債発行等について準備し、実施する。	
④	上記②と③の達成により、2027年度に学生数230名相当収入での資金収支均衡を実現し、その先に向けて持続可能なさらなる財政基盤の確立をめざす。	(1) 第二次神プロ財務シミュレーションの見直し・更新	「学生数230名で均衡」、「207名で均衡」、「その他の可能性」に基づく見直し案を作成する。	
		(2) 新規財源確保に向けた施策検討・実施	用地、施設の活用、賃借、売却、事業誘致などを検討する。	
⑤	上記④の実現を期すと同時に、年度毎の期末保有資金額を注視しつつ、実状に即したプラン見直しを随時進める。	(1) 期中の財務状況の把握と対応	常任理事会、理事長室、予算編成会議による期中の財務管理を徹底させる。	

その他（推進責任者：学長）

	第4期中期計画の目標	具体的施策	2023年度	2024年度以降
		(1) グローカル神学の推進のサポートを目指して、音楽・国際・福祉分野の社会連携の継続、新規支援団体・包括連携協定団体の獲得	近隣住民を対象とした音楽行事のため、印西音楽協会との連携を検討する。	
			印西市国際交流協会及び包括協定締結団体との連携を強化する。	
			「キリスト教と福祉研究会」を通して新たな包括連携協定団体の獲得を検討する。	
		(2) 大学全体の組織の強化	豊田信行氏（単立ニューライフキリスト教会牧師）を講師として定期的に招き、組織診断・評価、改善提案、管理職および職員研修を行う。（～2024年度）	
		(3) 全寮制についての検討	全寮制のあり方について検討し、理事会に報告を提出する。	